

カワセミ(カワセミ科) 全長17センチ

大仙市の鳥に指定されているカワセミ。

名前は知っていても実際に見たことがある人はかなり少ないようです。こうした実態から、少しでも市民にカワセミの実物を見てもらいたいと、観察会を開催してきました。

今年は4月8日(日曜日)に開催したところ、20名ほどが参加しました。



堤防から、水門(樋門)の下流に設置したカワセミのアパートを眺める。

神宮寺中川原公園の堤防上から眺めるポイントに皆さんを案内しましたが、カワセミはなかなか現れてくれません。肌寒さに耐えながら、待つこと約30分。

前触れもなくチッチーと、か細い鳴き声で飛来すると、お気に入りの枝先に止まりました。

正面向きのお腹は鮮やかなオレンジ色、背中キラキラと光を反射しコバルトブルーに輝いています。



多くの三脚が並び、今か今かと待っている。



数人の小学生も参加しました。

普段のカワセミは、同じ場所には長くとどまることは殆どありません。

しかし、今日は違いました。5分間も留まってくれたのです。双眼鏡で覗きながら、「わ～、きれい」「こっちを見てる」などと歓声が上がった。「生まれて初めてカワセミを見た。」という人もいました。

こうして参加者全員が自然のカワセミの姿を確認し、無事解散となりました。



クチバシ先端には土が付いています(オス)。巣穴を掘り進んでいる証拠です。



メスも同じくクチバシに土が付いていました。

今年の繁殖行動を推測。

巣穴掘りは4月20日ころまで完了し、下旬ごろに産卵。その後の抱卵は主にメスの役割です。オスが頻繁に餌の魚を運んできますが、時々巣穴に入り抱卵の役割を交代する事もあります。5月下旬頃には雛の巣立ちが見られることでしょう。

ヒナが巣立つまで観察の機会がありますが、繁殖行動に影響ないように堤防から降りないで眺めてください。